

## 下大賀遺跡（しもおおがいせき）

所在地：那珂市下大賀907番地2ほか  
調査期間：平成30年4月1日～7月31日  
調査面積：2,163㎡  
委託者：茨城県常陸大宮土木事務所  
事業名：一般国道118号道路改築事業  
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団（那珂事務所）  
TEL:029-225-6587      <http://www.ibaraki-maibun.org>

### 1. 遺跡の立地

当遺跡は、那珂市の北部、久慈川の支流である玉川右岸の標高42mの台地上に位置し、その範囲は広大で、東西2.3km、南北1.0kmに及びます。旧石器時代から近世までの複合遺跡として知られています。

### 2. 調査の概要

今回は7次調査にあたり、古墳1基、竪穴建物跡1棟、土坑約50基、道路跡1条、溝跡1条、ピット群2か所、方形竪穴遺構5基などを確認しました。

主な遺物は、古墳の石室内から直刀と勾玉が、周溝内から土師器の坏や須恵器の高坏・甕・平瓶などが出土しました。そのほか、平安時代の土坑からは墨書土器が出土しています。

### 3. 調査の成果

これまで周知されていなかった新たな古墳が発見されました。墳丘と石室の上部は削平されていましたが、石室下部の調査で、凝灰岩の切石を積み上げて作られた構造と、遺体を納める玄室の底面に円礫を敷きつめていたことを確認しました。玄室からは直刀や勾玉などの副葬品が出土しました。この古墳の周溝から出土した遺物から、古墳時代後期（6世紀後半）の古墳であると考えられます。古墳は調査区域外にのびており、墳形は円墳あるいは前方後円墳と考えられます。

そのほか、平安時代の側壁を挟り込む形状の土坑を1基確認しました。土坑内から出土した土師器には、「富内」という文字が墨書されていました。吉祥句と考えられます。



下大賀遺跡の位置図

※国土地理院地形図を一部加筆



円形にめぐる周溝



周溝から出土した土師器の坏



石室から出土した勾玉



玄室内から出土した直刀

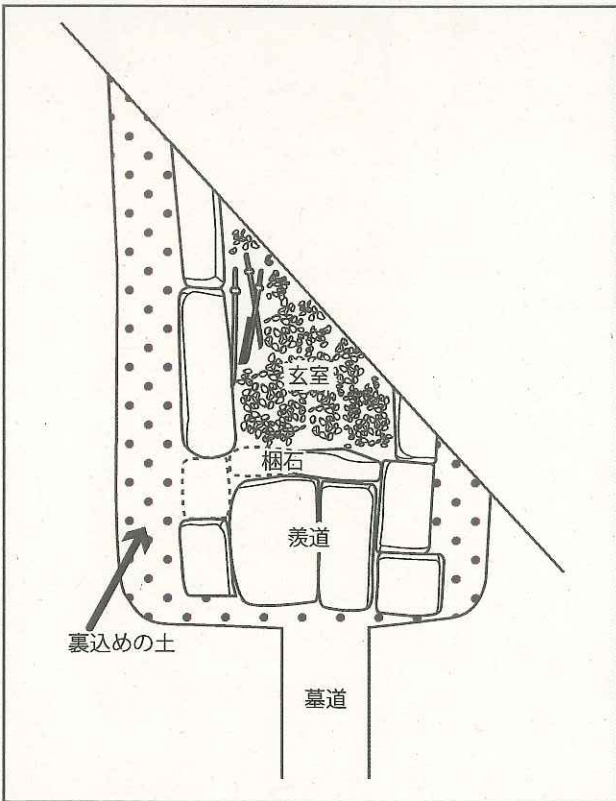


次回の現地説明会は7月1日（日）に水戸市水戸城跡で開催予定です。発掘調査の成果をぜひご覧ください。





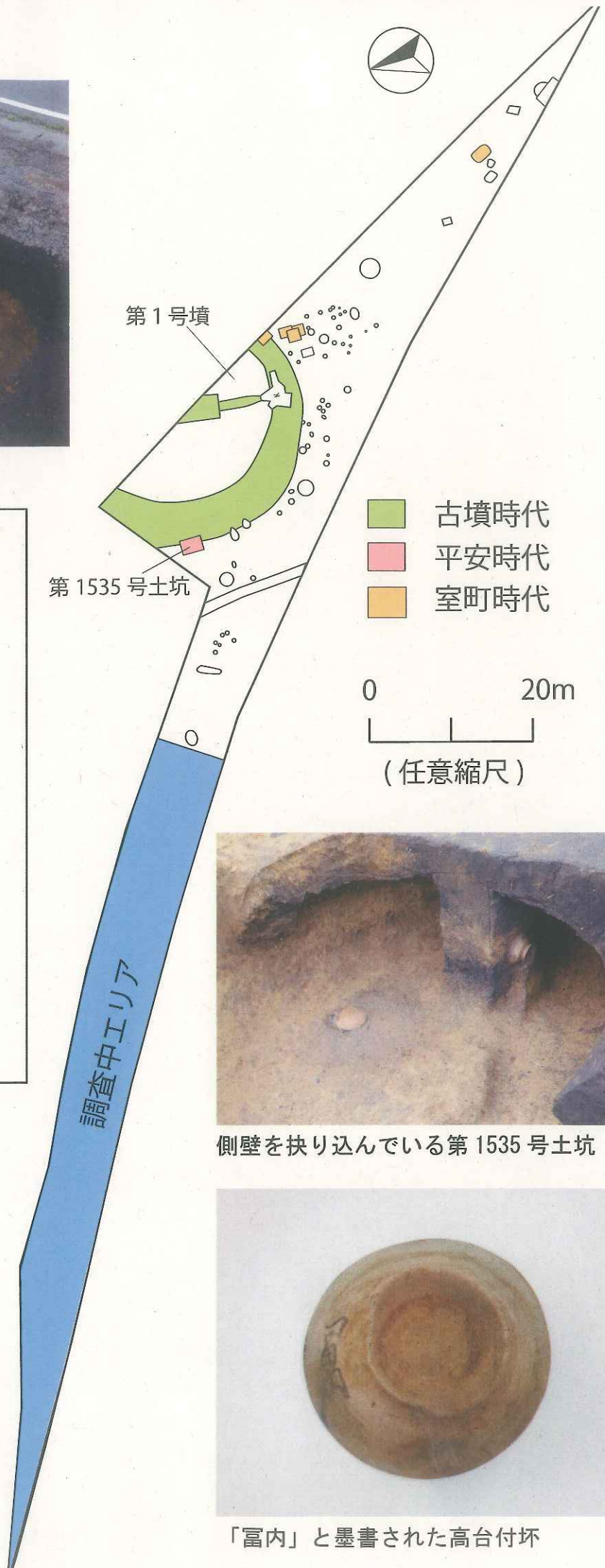
第1号墳の石室の調査



石室 模式図

調査中エリアは、現在も調査を行っている所です。所定の位置からの見学をお願いします。

アスファルト道路からの見学は、車両通行の妨げとなり危険ですので、ご遠慮願います。



側壁を抉り込んでいる第1535号土坑



「富内」と墨書された高台付杯